

ド キドキな1年を過ごして

初めての試み、当初(有)ユニオンシステムでは80~100aの予定でした。ところが春先の高温により機械移植用の苗立の失敗により、直まきの面積が5haまで増えました。直まきは話には聞いていましたが、実際には見たこともありません。技術、作業工程さえわからないままスタート。普及所の齊藤氏、農協の中道氏より時期が来たら次の作業の指示をもらう。

5月13、14日直まき始め。代のかきすぎでとろとろ。高低の差が大きくて水が抜けない時に農道ざわが低く大変苦労した。

種まきして2週間、まだ芽が出ない。段々不安になっていく。でも、普及所の齊藤氏からは「根が出てきているので大丈夫」との話。15日過ぎた頃より徐々に見えてくる。

- 6月に入り徐々に畦になって見えてくる。約10日遅れ。除草剤には
 ①クリンチャーEW — クリンチャーバスマE — キックバイ・ラクダープロフロアブル
 ②トップガンフロアブルー発剤

雑草の少ないところでは一発剤で十分効果があると思う。刈り取りは10月上旬でしたが天候にも恵まれ平年並みの収量となりました。



西川町 芳賀 喜一

直播に興味を持たれているか、導入を検討している方々が読まれていると思いますので、安定してきた理由を箇条書きにて記します。参考にして下さい。

- 均平作業、鎮圧の徹底による発芽の安定
- 発芽試験による雑草発生予測と除草体系の確立
- 葉色判定による適正追肥の模索
- 共同作業及び生育調査による各戸の意識向上
- 部会活動での毎年の考察と関係機関との交流

以上の積み重ねと天候にも恵まれ、昨年は全6戸の平均収量617kg/10aと第一目標である10俵超えを達成する事ができました。今年には更にステップアップし収量目標720kg/10a、乾籾播種の技術を目指し、水稲を含めた輪作体系を模索していきたいと思えます。

今年度、かなりの皆様方が直播栽培導入を検討されていると思います。土地利用型経営には必要不可欠の技術である事は周知されていますが、集約においても有効な選択肢と成り得ると思えます。関係機関の皆様のご苦労の中、講習会更に水稲直まき研究会の設立が予定されていますので、興味及び導入検討されている皆様方の多数の参加をお願い致します。

美 唄達布地区の直播導入のきっかけと活動経過

規模を拡大するにあたり、新たに多額の育苗経費がかかることや春作業の軽減を目的に私は平成8年より取り組みを始めました。

平成3年に北海道開発局の無人ヘリコプターの多目的利用実証試験(2年)でわが地域に初めて散播による湛水直播が行われたのがきっかけです。(当時2戸)

- 平成 7年 美唄直播研究会より播種機を借りて、乾田直播の試験を実施。
- 平成 8年 北海道元気づくり事業によりレベラー、播種機などを整備。直播研究組織(大沼ドリームファーム)設立。(9戸)
- 平成 9年 水稲直播奨励品種決定現地調査を開始。
- 平成10年 融雪の遅れなどから、条播湛水直播の試験開始。播種機は中央農試のヤンマー播種機で実施。
- 平成12年 「ほしのゆめ」の試験栽培を実施。
- 平成13年 いわみざわ農協推奨加工向け品種「あきほ」の導入。
- 平成14年 ヤンマー条播播種機導入。
- 平成16年 「大地の星」に組み込み、はじめて600kg/10aを達成。

湛水の匠



北村美唄達布 斎藤 正彦

<今後の目標>

- 面積を拡大する。
- 高収量、安定収量を確保する。
- 一層のコスト低減と省力化を目指す。
- 地域に技術の波及を図る。

<これまでの斎藤氏の直播収量>

年次	面積 a	網上重量 kg/10a	区分	品種名
H 8	89	420	乾田	ゆきまる
H 9	89	411	乾田	ゆきまる
H10	89	438	乾田	ゆきまる
H11	88	363	乾田	ゆきまる
H12	55	353	湛水	ほしのゆめ
H13	69	427	湛水	あきほ
H14	90	338	湛水	あきほ
H15	177	423	湛水	あきほ
H16	89	613	湛水	大地の星
H17	149	560	湛水	大地の星
H18	149	518	湛水	大地の星
H19	156	615	湛水	大地の星
H20	156	533	湛水	大地の星

<斎藤氏の部門別収支>

項目	直播栽培 ①	移植栽培 ②	差 ①-②
種苗費	4,512	1,079	3,433
肥料費	4,740	3,802	938
農薬費	6,640	5,060	1,580
光熱費	4,290	4,440	△ 150
諸材料費	986	3,255	△ 2,269
農機具費	29,444	39,703	△ 10,259
賃借料	10,408	9,031	1,377
水利費	6,457	6,457	0
共済掛金	2,237	2,237	0
租税公課	2,020	2,020	0
雑費	334	334	0
合計	72,068	77,418	△ 5,350

単位:円/10a

仲 間に恵まれて

私達の地区は昨年より直播を試みました。今思えば期待と不安のなかで取り組みました。天候と良き指導者に恵まれ思っていた以上の成績を上げる事が出来、今年にはずみが出来皆さん昨年の倍の面積に今年は取り組み仲間も増え、また皆さんと勉強して行かなきゃならないと思っています。また1年でも早く一連の技術をマスターし水稲面積の3分の1を直播で行う事が出来れば採算と労力の減少につながると思います。



北村豊正 村形 利光

私 のチャレンジ!

直播を2年試みました。

岩見沢北部の北村から美唄では、すでに確かな成果を上げている...。では、南西部から粟沢にかけての気候条件ではどうか...、私が栽培に取り組んでみる動機でした。水加減、追肥の量、タイミングなど、まだカンドころがつかめないため、結果は恥ずかしいものですが、稲の生理や種が持つ不思議な力を、育苗移植とは別の角度から見る事ができて、おもしろいものだと感じて入っています。

今後さらに品種改良が進み、加工米、飼料米の生産が必ず課題になります。そうした事への対応のためにも直播技術を身につけておくべきだと思います。仲間が近在で増え、機械の共有や一定ロットの生産が実現するよう期待しています。



上幌向町 倉知 拓野

水 稲直播に挑戦してみても

平成14年私たちは、赤川六機械利用組合を萌農産として、家族経営を残して、6戸で法人を立ち上げました。その後3戸の仲間がやむなく農業から離れ平成19年に、経営を一にした生産法人として出発しました。その間、作付面積も増え、労働力過重問題が大きいのしかかり、さらに追い打ちをかけるように、生産資材高騰など、早急に解決しなければならない課題が重なり思い悩んでいたところ、普及センターの齊藤普及員・農協の中道氏に出会い赤川地区でも直播を取り入れてはと声をかけられ地域の仲間と取り組みました。

まだ、一年目で技術的なことはかけませんが、春先からレベラーで整地、一連の作業を終え、5月14日に110aを1時間足らずで播種。その後、水を入れたらダメとの指導のもと2週間ぐらいでスリッパで歩けるようになり、「本当に大丈夫かな?」と不安になったのも事実であります。その後、生育も順調に進み除草剤散布・中干し・追肥の判断・刈り取り判断など、その都度指導していただき、時には農道で二人肩を並べて安い弁当を食べたことも思い出します。熱心な指導のお陰で10a当たり590kgと一年目にしては大変良い結果ではないかと思えます。昨年の反省としては、ヒエが多かったことかな?

とにかく、ハウス育苗が無い、本田での播種作業が楽で早いなど大規模経営にはなくてはならない栽培方法があります。今年、赤川・中央・栄町地区と仲間が増え、地域での勉強会などを通じ直播技術の確立を目指したいと思えます。最後になりましたが、大先輩の豊里地区・美唄達布地区の生産者皆様、また、普及センターの齊藤さんをはじめ、各関係機関の更なるご指導をよろしくお願い申し上げます。



北村赤川 小山 博士